

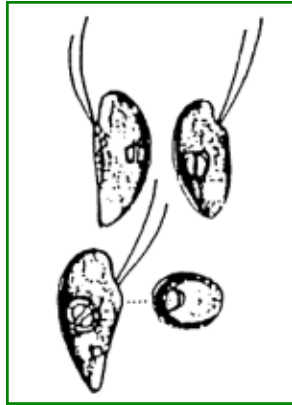
瀬田川プランクトン調査結果速報

～ 第9報 ～

滋賀県立衛生環境センター
琵琶湖水質担当
平成15年6月2日

1. 最も数が多かった種類（優占種）

植物プランクトン第1優占種



Rhodomonas sp.
(ロードモナス)
褐色鞭毛藻綱

細胞は、長楕円形で長さが約10 μmと小型であり、葉緑体は少し赤みを帯びている。
2本の鞭毛を有する。

動物プランクトン第1優占種



Epistylis procumbens
(エピスティリス)
繊毛虫類

虫体は長さ100 μmくらい。後部が茎のように長くなっているため、細長くなっている。茎は2枝状に枝分かれしていて、中に筋肉がないので収縮はしない。群体は、長さ1mmに達する事もある。以前から琵琶湖で見られた種類(*Epistylis* sp.)である。

コメント

植物プランクトンは、淡水赤潮の原因となるウログレナ (*Uroglena americana*) が減少し、珪藻に属するメロシラ グラヌラータが増加した。動物プランクトンは、エダワカレツリガネムシが多く見られた。5月30日の調査で1700個体/と多く見られたゾウミジンコは、今回の調査では90個体/に減少した。

2. 見つかった主なプランクトンとその数（個体数）

(1) 動物プランクトン

第 1 優 占 種		個体数 (個体 / l)
繊毛虫類	<i>Epistylis procumbens</i>	710

第 2 優 占 種		個体数 (個体 / l)
繊毛虫類	<i>Codonella cratera</i>	140

* 個体数については、プランクトンネットで採取したものを直接検鏡して計測した。

瀬田川植物プランクトン調査結果速報

滋賀県立衛生環境センター

琵琶湖水質担当

(2) 植物プランクトン

平成15年6月2日

第9報

(綱) 種 名	細胞数 (群体数)	優占種(占有率)	
		数	体積
(黄鞭) <i>Uroglena americana</i>	20		
(黄鞭) <i>Ochromonas</i> sp.	30		
(黄鞭) <i>Mallomonas</i> sp.	10		
(黄鞭) <i>Pseudopedinella</i> sp.	10		
(珪) <i>Melosira granulata</i> var. <i>angustissima</i>	88		
(珪) <i>Asterionella formosa</i>	15		
(珪) <i>Synedra acus</i>	1		
(珪) <i>Gomphonema</i> sp.	10		
(渦) <i>Ceratium hirundinella</i>	7		
(褐) <i>Cryptomonas</i> sp.	60		
(褐) <i>Rhodomonas</i> sp.	240		
(み) <i>Trachelomonas oblonga</i>	10		
(緑) <i>Chlamydomonas</i> sp.	10		
(緑) <i>Pediastrum biwae</i>	16		
(緑) <i>Scenedesmus circumfusus</i>	8		
(緑) <i>Closterium aciculare</i> var. <i>subpronum</i>	1		
(緑) <i>Closterium acutum</i> var. <i>variable</i>	10		
(藍) 藍藻綱	0	0.0	0.0
(黄) 黄緑藻綱	0	0.0	0.0
(黄鞭) 黄色鞭毛藻綱	70	12.8	3.7
(珪) 珪藻綱	114	20.9	7.7
(渦) 渦鞭毛藻綱	7	1.3	47.1
(褐) 褐色鞭毛藻綱	300	54.9	32.0
(み) みどり虫藻綱	10	1.8	0.2
(緑) 緑藻綱	45	8.2	9.2
(他) その他のプランクトン	0	0.0	0.0
総 細 胞 数	546	総体積	4.46E+05
種 類 数	17	(μm^3)	

注1) 細胞数の単位は(細胞 / ml)

ただし*印の種は群体数(群体 / ml)

注2) 優占種は が第1優占種、 が第2優占種

数字は各綱ごとの占有率(単位: %)

注3) 細胞体積は、顕微鏡観察による画像から

試験的に推定した概算値である。